

(2) 各都市発表資料 (発表順)

①国際連合人間居住計画 (ハビタット) 福岡本部

<p>第6回アジア太平洋都市サミット実行委員会</p> <p>国連ハビタットと 文化・歴史遺産に 配慮した都市づくり</p> <p>福岡本部 本部長 野田順康</p> <p>UN-HABITAT United Nations Human Settlements Programme September 2009</p> <p>1</p>	<p><i>Cities: Crossroads of Culture, Inclusiveness, and Integration</i> (2004年 世界都市フォーラムのテーマ)</p> <p>21世紀の都市の抱える大きな課題:</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 文化の地球規模での衰退 ② グローバル化による、文化への劇的な影響 ③ 22世紀までに、世界の6,000の言語のうち半数近くが消滅する <p>September 2009</p> <p>2</p>
<p><i>Harmonious Urbanization: The Challenge of Balanced Territorial Development</i> (2008年 世界都市フォーラムのテーマ) 〈南京宣言: 第7項〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 歴史的、文化的遺産に特別の注意が払われるべきである。 ② 歴史的および文化的遺産を保護することは、平和と結束を推進する大変重要な手段である。 <p>September 2009</p> <p>3</p>	<p>都市文化のベストプラクティス: バルセロナ(スペイン)</p> <p>'都市の文化・歴史遺産を保全した都市づくりのベストプラクティス'</p> <p>September 2009</p> <p>Photo: スペイン政府観光局</p>
<p>都市文化のベストプラクティス: バンクーバー(カナダ)</p> <p>'多文化と環境持続可能性に配慮した世界で最も住みやすい都市'</p> <p>September 2009</p> <p>5</p>	<p>都市文化のベストプラクティス: 南京(中国)</p> <p>'調和ある都市開発のベストプラクティス'</p> <p>September 2009</p> <p>6</p>
<p>都市文化と気候変動</p> <p>* 2070年までに、ダッカ、コルカタ、ラングーンなど河川沿いの都市や、多くの港湾都市を抱えるバングラデシュ、中国、タイ、ベトナム、インドは都市文化損失の危機にある。</p> <p>UN-HABITAT State of the World's Cities 2008/2009</p> <p>アレキサンドリア</p> <p>50cmの海面上昇</p> <p>200万人の住居と 214,000人の雇用損失</p> <p>350億ドルの観光などの経済損失</p> <p>さらに多くの歴史的・文化的遺産と遺跡の損失</p> <p>September 2009</p> <p>7</p>	<p>国際連合人間居住計画(ハビタット) 福岡本部(アジア太平洋担当)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 設立 1997年8月 ● 職員数(福岡) 23人 ● 現地事務所 94 ● プロジェクト職員数 約2,000名 ● 担当国 28カ国 ● アジア太平洋事業予算 約287百万ドル <p>(2009年4月現在)</p> <p>September 2009</p> <p>8</p>



②基調講演：ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室

求められる文化政策のパラダイムシフト——
アートで都市の未来を切り拓く

吉本忠監「ニッセイ基礎研究所」

1

日本の文化政策の概要と3つの転換点

◎ これまでの文化政策

- ◎ 国(文化庁、芸術文化振興会、国際交流基金等)
 - 文化財の保存・活用、伝統文化の継承・振興、芸術文化の振興、国立劇場・美術館、芸術文化助成金、国際文化交流 etc.
- ◎ 地方公共団体(都道府県、市区町村、財団法人)
 - 文化施設の整備、鑑賞機会の提供、市民文化活動の促進 etc.
- ◎ 民間企業・財団
 - 文化施設の運営、文化事業の実施、メセナ(芸術文化支援) etc.

◎ 文化予算国際比較(文化庁調べ)

国名	予算額(億円)	1人当(円)	比率(%)	年度	備考
日本	1,006	787	0.13	2006	文化庁平成18年度予算
フランス	4,531	7,385	0.86	2006	文化・コミュニケーション予算
ドイツ	1,010	1,226	0.25	2006	連邦政府首相府文化メディア庁予算
イギリス	2,886	4,762	0.24	2006	文化・メディア・スポーツ省予算
アメリカ	982	326	0.03	2006	①米国芸術基金予算(NEA) ②スミソニアン機構予算 ③内務省国立公園部文化財保護予算
韓国	1,782	3,674	0.93	2006	文化観光部・文化財庁予算

1. 比較は、国の予算全体における文化関係予算の割合。
2. 予算額は、1000=100万円、10000=1000万円、100000=10000万円として換算。レートは平成19年1月1日。
3. イギリスについては、表の文化・メディア・スポーツ省の予算額は、我が国の文化関係予算と比較するため、観光、スポーツ、放送等にかかる予算額を控除して算出。
4. アメリカについては、政府の主要府省を併合するための総務管理府等が中心であり、政府による府省統廃合は少ない。
5. 韓国については、我が国の文化関係予算と比較するため文化観光部の予算額(観光及び体育振興に係る予算額を控除)を算出。文化財庁の予算額は別途である。

Trend 1: 文化政策の領域(ドメイン)の拡大

- ◎ 芸術文化から「アート」へ、アートによる社会サービス
- ◎ 教育: アウトリーチの定着と広がり
 - (財)地域創造、公立文化施設、芸術団体 etc.
 - アートNPO(芸術家と子どもたち、STスポット横浜等)
 - Arts in Education(AIE)、英Creative Partnerships
- ◎ 福祉・医療
 - 高齢者の元気回復(NPOふらの演劇工房、ARDA)
 - アートミーツケア学会
 - 英国コミュニティダンス(健康、医療、障がい等)
- ◎ その他
 - 犯罪者更生、防災、環境、外交、ソフトパワー論 etc.

Trend 2: 文化政策の担い手の多様化

- ◎ アートNPOの台頭
 - NPO総数: 35,659(2008.9.30)
 - 第4号目的(学術、文化、芸術又はスポーツ): 11,654件(32.7%)
 - アートNPO数(「アートNPO」リンク調べ): 535(03.7)→1,122(04.9)→1,420(05.9)→1,730(06.9)→2,006(07.9)→約2,255(08.9)
- ◎ オルタナティブ・スペースの出現
 - 遊休施設・歴史的建造物をアートNPOが活用
 - 創造都市形成のトリガー
- ◎ 指定管理者制度
 - 民間事業者による公立文化施設の運営
- ◎ 公益法人制度改革
 - 一般財団・社団、公益財団・社団

Trend 2: 文化政策の担い手の多様化

資料: NPO法人・アートNPOリンク(アートNPO数)、内閣府(非営利セクターNPO数)

Trend 3: 都市政策、産業政策との連携

- ◎ クリエイティブシティの概念に基づいた政策展開
 - 脱工業化で衰退したEU諸国の重工業のアートによる再生
 - 札幌市、横浜市、金沢市、高松市、北九州市など
 - 都市経営のソフトウェア(OS)としてのアート
- ◎ リーディング産業としてのクリエイティブインダストリー
 - 芸術文化、映画、デザイン、建築、広告、TV・ラジオ、コンピュータソフト(13分野)→日本ではコンテンツ産業(映画、アニメ、コンピュータゲーム等)に限定
 - クリエイティブ・クラス、クリエイティブ・エコノミー
 - アートの創造性・革新性がもたらす産業・経済へのインパクト

2 世界各国で進むクリエイティブシティ



◎ EU諸国の主な創造都市

- ◎ ニューカッスル/ゲーツヘッド: 巨大アード「北の天使」で甦った造船技術と市民の誇り
 - ◎ ロンドン: 2004年に「クリエイティブ・ロンドン」という政策をスタートさせ、世界的な創造性の中心地を目指す。2008年「cultural audit」を発行
 - ◎ ベルリン: 2004年に創造産業イニシアチブに着手、05年度「ベルリン市創造産業調査報告書」発行。ユネスコの「創造都市ネットワーク」に認定
 - ◎ エッセン: 世界遺産の産業遺構ツォルフェラインをデザイン拠点に再生、2010年欧州文化首都[Ruhr2010]でさらなる飛躍
 - ◎ ナント: 市の予算の15%を文化予算に投入、Folles JourneesやRoyal de Luxeなど、オリジナルソフトで世界を魅了
 - ◎ アムステルダム: 巨大な都市ガス工場、造船所跡を、アートや創造産業の創造拠点に活用
 - ◎ ポローニヤ: 2000年「欧州文化首都」として、「ポローニヤ2000」を実施。文化的観光都市としての地位を確立
 - ◎ ハルセロナ: Agenda21 for cultureに基づき、政策結合の観点から、文化政策と経済、教育、環境、都市計画などの公共政策との連携を推進
 - ◎ ビルバオ: グッゲンハイム美術館の創設に伴う莫大な観光・経済効果。以降、芸術関連の活動を通して衰退した地域の再生や創造産業、観光産業を振興
- 資料：クリエイティブシティ研究所(国内) 内の創造都市等の調査(2009年3月)(横浜市委託調査)等

◎ 北米、アジア・太平洋地域の主な創造都市

- ◎ オースチン: 6つのカテゴリ、31の提言および戦略によって市の芸術、文化、創造産業の振興策を提示した「クリエイティブ・オースチン文化基本計画」を策定
 - ◎ バンクーバー: 市の文化と創造の多様性を活発で豊かなものとするよう支援・開発・促進するため「2008-2018年度バンクーバー市新文化計画」を策定
 - ◎ 上海: 2007年末時点で、上海市は75件の創造産業地を承認、30カ国以上の国・地域から3,000件以上の創造企業を誘致し、3万人が雇用
 - ◎ 釜山: 政策目標は東北アジア世界の海洋首都、文化・観光予算は1,500億ウォン(市予算の2.3%)。釜山国際映画祭の成功と映像産業の集積で、映像文化産業都市へ
 - ◎ 台北: 中国と西洋の架け橋として存在する台北市は、台湾の文化・創造産業の総営業収入の40%を占める。2007年度に文化指標調査を実施
 - ◎ シンガポール: 2000年のルネッサンス・シティ・プラン(RCP)以降、05年RCP II、08年RCP IIIによって、芸術文化による都市の活性化、創造産業の振興を推進
 - ◎ ハンドン: 創造的な活動に取り組む地元グループが増加、市は中長期の開発計画の中に創造都市政策・戦略を規定して課題に対応
 - ◎ メルボルン: 市の2020年までの計画において「創造都市」を目標の一つに掲げる。芸術文化政策の予算は約1,000万A\$ (市の総予算の約3%)
- 資料：クリエイティブシティ研究所(国内) 内の創造都市等の調査(2009年3月)(横浜市委託調査)等

◎ 日本の主な創造都市

- ◎ 文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門):
 - 2007年度: 横浜市、金沢市、近江八幡市、沖繩市
 - 2008年度: 札幌市、豊島区、篠山市、萩市
 - ◎ 札幌: アイディアシティを標榜。札幌アートヴィレッジでは、映像、音楽、芸術関連ソフトウェア等の人材育成や分譲・賃貸を実施
 - ◎ 仙台: 魅力と活気あふれる創造的な都市づくりを推進するため、観光や産業などの分野とも連携を進めながら、芸術文化の発信力を高める
 - ◎ 金沢: 金沢の個性である歴史や伝統文化に加え、金沢21世紀美術館など新たな都市拠点を活用し、金沢ならではの魅力を発信
 - ◎ 高松: 2010年の「瀬戸内国際芸術祭」開催に向けた取り組みを通じて、瀬戸内海の島々をはじめとする地域資源の再評価、活性化を推進
 - ◎ 北九州: 新しいITサービスの創出によるIT産業の集積を図る「北九州e-port構想推進事業」や、デザイン・映像分野の人材育成事業等を展開
- 資料：クリエイティブシティ研究所(国内) 内の創造都市等の調査(2009年3月)(横浜市委託調査)等

※EU諸国の創造都市のスライド

3 アートNPOが牽引する日本の創造都市

◎ 横浜、文化芸術創造都市への取り組み

- ◎ 目標
 - アーティスト・クリエイターが住みたくなる創造環境の実現
 - 創造産業の集積「クラスター」の形成による経済活性化
 - 魅力ある地域資源の活用
 - 市民が主導する文化芸術創造都市
- ◎ 4つのプロジェクト
 - ナショナルアートパーク構想
 - 創造界限の形成
 - 映像文化都市
 - 横浜ドリエンナーレ

◎ アートNPOとの協働による創造界隈の形成



◎ 創造界隈拠点施設における経済波及効果

- ◎ 施設整備による効果: 約39億円
 - 映像文化施設(東京芸大映像研究科馬車道校舎/新港校舎)
 - BankART1929Yokohama/BankARTStudioNYK/万国樓SOKO
- ◎ 入居企業・団体の事業・創作活動による効果: 約65億円

2004年	2005年	2006年
731百万円	1,726百万円	4,066百万円

 - BankART 1929 Yokohama
 - BankART Studio NYK
 - 東京芸大馬車道校舎
 - 北仲Brick&White
 - ZAIM
 - 東京芸大新港校舎
 - 万国樓SOKO
 - 本町ビルシゴカイ
- ◎ イベント来場者の消費活動による効果: 約16億円
 - BankART1929Yokohama/BankARTStudioNYK/ZAIM
 - 交流人口の増大
- ◎ BankARTのパブリシティ効果



◎ 横浜クリエイティブシティ国際会議2009

- ◎ 「横浜宣言」 2009年9月6日
 - 開港の地である横浜都心臨海部の再生と、郊外部への展開
 - 横浜を、創造性を持った人々にとってチャンスのある街にしてい
 - 行政と市民やNPO・企業等との協働の新たな展開
 - アジアをはじめとする内外の都市との創造界隈拠点を中心とした交流、横浜から提案する創造都市を世界に発信する

※クリエイティブシティ:ヨコハマのスライド

◎ アートNPOの台頭と全国フォーラムの試み

- ◎ アートNPO: アートの価値や力を確信している市民組織
 - 全国アートNPOフォーラム
 - 第1回2003.10.12-13(神戸): 芸術と社会をつなぐ
- ◎ ステートメント

……現代社会が抱える課題解決にアートが不可欠な存在であることを確認しました。私たちは、アートが多様な価値を創造し、社会を動かす力を持つ、極めて社会的な存在であるとの認識をもとに、この力を広く社会にアピールしていきます。アートNPOは、市民自治の理念にもとづき、アートと社会の機渡しを通して、幅広く領域をこえたNPOと連携し豊かな市民社会を創出する役割を担っています。アートは 社会の変化を先取りする力を持っており、アートNPOは、社会を変革する潮流において大きな力を発揮できると考えます。……

 - 第2回 2004.10.23-24(札幌): 学校におけるアートNPOの可能性
 - 第3回 2005.11.05-06(前橋): アートNPOによる都市再生
 - 第4回 2006.10.14-15(青森); 第5回 2006.11.25-26(別府)
 - 第6回 2007.12.14-16(淡路島); 第7回 2008.11.21-23(沖縄): 淡路島アート鑑定書



◎ アート[NPO]イニシアティブが牽引する日本の創造都市

- ◎ 遊休施設のアートセンター化
 - 従来の公立文化施設とは一線を画した新しい文化施設
 - クリエイティブな場の創出と人材の吸引
 - 創造都市形成のトリガー、コア、起点
 - 創造的産業への波及
- ◎ アートと市民社会の回路づくり
 - 芸術文化を劇場や美術館から市民社会や日常に解放
 - 教育、福祉、医療、環境等、社会的課題にアートでチャレンジ
 - 市民社会の様々な分野にアートが根を下ろし、創造的な問題解決
 - 市民、行政、民間企業、NPO等が、従来の固定概念にとらわれず、様々な問題、課題をクリエイティブに解決

↓ ↓ ↓
クリエイティブシティ

4 アートによる地域・都市の再生

◎ 小さな田舎町でのチャレンジ



◎ 大地の芸術祭「越後妻有アートリエナーレ」

- ◎ 立地
 - ・新潟県の6市町村、760km²
 - ・人口: 78,000人
 - ・過疎化: 過去40年間で約40%の減少
 - ・高齢化: 65歳以上人口は25%以上
 - ・美しい棚田、日本の里山の風景、世界有数の豪雪地帯
- ◎ 事業の経緯
 - ・2000年: 新潟県の地域活性化事業としてスタート、世界32ヶ国、138人のアーティストが参加
 - ・2003年: 23ヶ国、157人・組のアーティストが参加
 - ・2006年: 45ヶ国・地域、225人・組のアーティストが参加
 - ・2009年: 38ヶ国・地域、約350作品(うち新作約200点)

◎ 基本理念: 人間は自然に内包される

- ・ 文明の曲がり角、里山は人間本来の生に対する視座を見つめなおし、近代的パラダイムを変革するきっかけ
- ◎ 里山とアート:
 - ・ 200 集落に散在させる徹底的に非効率な展示、里山の美しさと積層した人間の時間を浮き上がらせる作品で五感を開放
- ◎ 他者の土地にものをつくる
 - ・ コミュニケーション、共同性の問題が、地域再生の契機
- ◎ あるものを活かして価値をつくる
 - ・ 里山や集落の行まい、棚田、民家、学校に新たな価値を創出
- ◎ 生活の集積が文化
 - ・ 芸術が生活とともにある本来の姿に立ち戻る
- ◎ サイトスペシフィック
 - ・ 場所性に根ざした表現、アートによる「地域」の再発見
- ◎ 時間の形象化
 - ・ 人々の記憶・時間をよみがえらせるアート

◎ 越後妻有「大地の芸術祭の里」丸ごと里親プロジェクト

- ◎ 越後妻有の里の再生
 - ・ 新しい社会貢献と都市農村交流の発信
 - ・ 都市におけるコミュニティや人間本来の暮らし方の喪失、農村における人口流出、高齢化集落、里山の荒廃など、都市と農村の普遍的課題に対し、都市部の企業・団体と里山の集落との新たな関係を構築し、越後妻有の里を再生を目指す
- ◎ 里親資金
 - ・ 「大地の芸術祭」作品のスポンサーとして認定
 - ・ 集落との間でお米を契約栽培されるお米
 - ・ 農作業体験のほか、集落との交流活動

※越後妻有アートリエナーレのスライド

◎ 瀬戸内国際芸術祭2010

- ◎ アートと海を巡る100日間の冒険
 - ・ 2010年7月19日-10月31日
 - ・ 直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島+高松
- ◎ 海の複雑
 - ・ グローバル化・効率化・均質化の中で、島々の人口は減少し、高齢化が進み、島の固有性は失われつつある
 - ・ 瀬戸内の島々に活力を取り戻し、瀬戸内海が地球上のすべての地域の『希望の海』となることを目指す
- ◎ 島×生活×アート
 - ・ 島固有の民俗を活かし、島々の生活、歴史に焦点を当て、アートに関わることで住民、お年寄りの元気を再生する

◎ アートによる教育の再生: アウトリーチの定着と広がり

- ◎ (財)地域創造
 - ・ 公共ホール音楽活性化事業(おんかつ): 1998-、218団体
 - ・ 公共ホールダンス活性化事業(ダン活): 2002-、37団体
 - ・ 演劇ネットワーク事業(演ネット): 2008-
 - ・ 若くて有能な演奏家、現代ダンスの振付家・舞踊家、演劇の演出家・俳優を地域に派遣、学校でクリエイティブなワークショップを実施
- ◎ アートNPOによる取り組み
 - ・ 芸術家と子どもたち(東京)、STスポット横浜、子どもとアーティストの出会い(京都)、アートサポートふくおか など
 - ・ 「創造的な表現や新しい価値を生み出すことに生涯を捧げているアーティストたち、彼らとの出会いによって子どもたちは、『ものの見方、考え方、表現方法などにおける]答えはひとつではない]ことを学びます。大切なのは、子どもたちがワークショップという、主体的で試行錯誤をともなう体験を通じて、実感をもって、言い換えれば身体感覚を研ぎ澄ませて、それらを頭ではなく身体で理解すること」 榎原啓(芸術家と子どもたち代表)

◎ アートによる教育の再生

◎ Creative Partnerships(英国)

- 2002年文化・メディア・スポーツ省と教育技能省が共同でスタート
- クリエイティブパートナー(アーティストやクリエイティブな実務家)を学校に派遣し、子どもたちの創造的な能力を養い、学校のカリキュラムや教育のあり方自体をクリエイティブに変革
- 02-06年で1億5,000万ポンド(約300億円)を投入、イングランドの3分の1以上の学校が参加
- 2008年度から、「Find Your Talent」という週5時間の文化的な授業を全小中学校に導入
- 子どもたちのクリエイティブな才能を育成することが英国の産業・経済を支えるという理念に基づいて実施

◎ Creative Partnershipsの成果

- ◎ 教育研究財団による13,000人の生徒を対象にした追跡調査
 - 参加生徒の英語、数学、理科の平均点(7~14歳)、理科の平均点と総合点(14~16歳)が、非参加生徒よりも優れた成績
 - 参加生徒(11~14歳)の成績は、全国平均を上回る
- ◎ BMRB研究所による510人の校長を対象にした調査(そう感じた割合)
 - 生徒の自信が向上した(92%)
 - 生徒のコミュニケーション能力が向上した(91%)
 - 生徒の学習意欲が向上した(87%)
 - 生徒が学校で楽しく学ぶことが増えた(全体76%、中学校80%)
 - 生徒の自習能力が向上した(全体76%、中学校78%)
 - 生徒の学ぶ態度が改善した(全体57%、中学校70%)
 - CPは教育水準の向上に極めて大きな貢献をしたと思う(79%)

資料: Creative Partnershipsが2006年に発表した各種評価レポート

◎ 犯罪者更正: コミュニティダンス、コンテンポラリーダンス

◎ Dance United, The Academy(英国)

- プロのダンスアーティストの育成メソッドから開発
- 従来の教育環境から落ちこぼれて、犯罪者となる恐れの高い青少年に対して、身体的にも、精神的にも、そして芸術的にも質の高い経験を提供する取り組み
- 青少年の犯罪の再発を防止するだけでなく、彼ら自身の能力の発見や社会での成功にも結び付けることが狙い
- 英国中部の都市ブラッドフォードの少年犯罪対策チームと協働で、ダンスユニテッドのダンスアーティストたちが少年院の青少年たちを対象に実施3週間、毎日5時間のダンスプログラムを実施。最後に劇場で成果発表の公演

◎ Pat Graney Company, Prison Project(米国)

◎ オペラによるホームレス支援

◎ Streetwise Opera(英国)

- 代表マット・ビーコック(音楽雑誌の編集者、路上生活者の支援ボランティア)、政治家のホームレスに対する発言に反発
- ホームレスが自信を取り戻し、プライドを持って前向きに生きるためのモチベーションを与えることが目的に2002年設立
- 全国11ヶ所のホームレスセンターで事業を展開
- ワークショップ(毎週開催)、定期公演、舞台芸術の鑑賞、芸術団体の仕事体験など、年間延3,000人が参加
- 年に1回、ロイヤルフェスティバルホールなどでプロと一緒に出演する大型のオペラ公演に出演。
- 自尊心を取り戻すとともに、家族に再会した、働き始めた、など具体的な効果

※Streetwise Operaのスライド

◎ 求められる文化政策のパラダイムシフト

◎ 狭義(従来)の文化政策

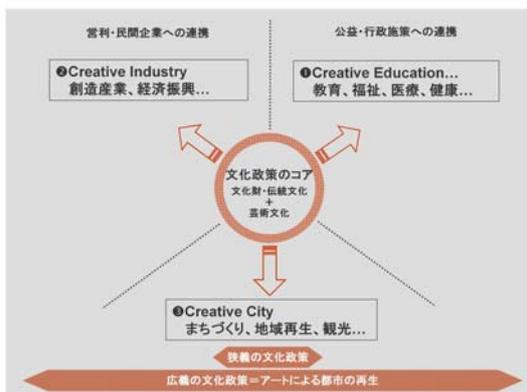
- 文化政策のコア: 文化庁・文化振興部局+従来型の財団
- 芸術文化の振興+伝統芸能・文化財の保護・継承・発展

◎ 広義(これから)の文化政策

- 文化政策の広がり→ ホリシーミックス: 省庁・部局横断
- 教育・福祉、産業活性化、地域再生、まちづくり etc.
- 新たな公共(NPO+新財団・社団)とそれを支える寄付税制

◎ 芸術文化への投資とアートによる幅広い社会的リターン

- 社会的なコストの削減
- [中心: 狭義の文化政策] 循環 [周縁: 広義の文化政策]



◎ アートで都市の未来を切り拓く

◎ 支援・保護される芸術文化

(国・地方公共団体+民間メセナ)



◎ アートを起点としたイノベーション

(新しい公共: NPO、市民、新公益法人、民間企業、国・地方自治体etc.)

③福岡市 市民局 文化部 文化振興課

アジア太平洋都市サミット実務者会議

**文化芸術による、元気で、
多彩な人々が集う街を目指して**

—福岡市の文化芸術振興施策—

福岡市役所 文化振興課
中嶋 裕一
2009.9.18

Arts for All
Arts for Future

▶ **コンテンツ**

- 福岡市の文化芸術振興施策の位置と範囲
- 福岡市の特徴・歴史など
- 文化芸術関連の行政の体制
- 主な分野での取り組み
- 今後の展開

Arts for All
Arts for Future

▶ **福岡市の文化芸術振興施策の位置と範囲**

Arts for All
Arts for Future

▶ **福岡市の特徴・歴史など**

特徴 ・日本で4番目に人口が多い都市圏(約237万人)であり、九州・西日本の中心的都市

歴史 ・昔から「芸どころ博多」と呼ばれ、市民ベースでの文化活動が盛んな地域
・企業ベースで、音楽・演劇・映画等のハードが多く整備されている

↓

行政のスタンス

- 行政は市民・企業等の活動を補完
 - 先駆的または伝統的な公演の開催
 - 市民・企業の文化活動の支援
 - 大規模施設の設置 など

Arts for All
Arts for Future

▶ **文化芸術関連の行政の体制**

・市役所の複数局と、文化芸術振興財団・博多座等により構成

福岡市役所	市民局 文化部	(株)博多座
	教育委員会	文化芸術振興財団
	経済振興局	
	総務企画局国際部	

福岡市(行政)の役割: アジア文化賞, アジア太平洋都市サミット

主な分野での取り組み

Arts for All
Arts for Future

▶ **音楽分野**

・クラシック等については民間だけでは成り立ち難いため、行政が施設整備や運営支援を行っている

・ポップ等は民間で十分に充実している

	行政単独	企業・NPO等と共働
ソフト	クラシック等	九州交響楽団 福岡古楽音楽祭
	ポップス等	ストリートパフォーマンス ミュージックシティ天神
ハード	あいれふ	アカロス福岡 サンパレス
	音楽・演劇練習場	市民会館

<p>アカロス福岡シンフォニーホール</p>	<p>九州交響楽団</p>
<p>ミュージックシティ天神 (市役所前、警固公園)</p>	



▶ その他の特徴的な取り組み

Arts for All
Arts for Future

福岡ゲーム産業振興機構 (2006～)

【目的】
福岡を世界的ゲーム産業の
拠点にする
【構成】
ゲーム企画開発・制作会社
+ 九州大学 + 福岡市役所



福岡アジアコレクション (2009～)

【目的】
アジアにおけるファッション産業
拠点「福岡」の実現を目指す
【構成】
ファッション業界 + 商工会議所
+ 福岡県庁 + 福岡市役所



17

今後の展開

▶ 今後の展開

Arts for All
Arts for Future

・福岡市文化芸術振興ビジョン (策定 2008年12月)

基本理念

- ・全ての人々にとっての文化芸術、未来へ向けての文化芸術
- ・～ Arts for All , Arts for Future ～

特徴

- ・未来の担い手である子ども達への重点的な取り組み
- ・文化芸術を支える若者の創造活動の支援
- ・文化芸術を担う多様な主体との連携・協働

19

